

# CLCからしだね書店便り



3

March  
2024  
no.39

## \*今月のご案内\*

- ① 連載第3回  
「子どもと大人のためのこころの対話  
—信仰と哲学—」
- ② CLCアジア代表者会議に  
出席して考えたこと  
CLCからしだね書店 坂岡 凱歌



CLCからしだね書店では…

- ① キリスト教書だけでなく、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- ② お洒落でかわいい雑貨や小物もあります。
- ③ ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- ④ コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。
- ⑤ 図書コーナーも併設予定です。ドリンクを片手に、好きな本を手にとってお読みください。
- ⑥ 古書のコーナーもあります。ほりだしものあります。
- ⑦ 読書会や著者を招いての講演会など、人と人が出会い、つながる「対話」の場を提供します。

CLCからしだね書店 & カフェ トライアングル  
営業時間 11:00-17:00 (※祝日も営業)  
日曜日と年末年始  
定休日 毎月第3木曜日は書店のみ営業

# 子どもと大人のための こころの対話

—信仰と哲学— 坂岡 大路

連載第3回

前回のあらすじ:

哲学カフェ「べれや」のマスターはカラシちゃん、タネオくんと対話する。哲学は「異質な他者と共に生きるために必要な教養だ」と言うマスター。哲学の本質は「そもそも何のため?」を他者とともに掘り下げることにあり、と言う。そして、イエスキリストはこの先駆だった、と斬新な主張をするのだが……。

**カラシちゃん**…「そもそも」を問い直すことが哲学なんだって、マスターは言っていたよね。

**マスター**…そのとおりー! 哲学者の苦野一徳は「青臭い話」と言ったりしている。「そもそもなんで……?」とか語りだしたら「青臭い」とか「今更?」とか言われそうだよ。でも、これってとても大事なことだ。だって、その土台が崩れたらすべてが崩れてしまっただからね。

**タネオくん**…イエスが「青臭い対話をしていた」ってイメージ、あんまりないんですが……。

**マスター**…ぼくは、聖書は極めて「哲学的な本」だと考えている。なぜなら、イエス自身が「そもそも律法はなんのため?」という問いを発しているからね。

**カラシちゃん**…律法ってなんだっけ?!

**タネオくん**…当時のユダヤ教の戒律のことだね。

**マスター**…イエスの言葉を引用してみよう。

**カラシちゃん**…すごくいいことが書いてあるじゃないですか! 当時の人達は、この教えを忠実に守っていた、ということ……。

**マスター**…それも言い切れないんだ。「律法主義者」と呼ばれる人たちは、異邦人、異教徒、障害のある人、羊飼いや遊女といった「卑しい」職業の人を、「神に見捨てられた罪人」として見下していた。その理由は、「律法」だと彼らが解釈しているものに反している「からだ」だった。

**カラシちゃん**…実際にやっていると「公正」と全然ちがう!

**マスター**…ただ、律法主義者の言っていることにも一理あって、実際に細々とした規定がたくさん書いてあるんだよね。でも、「それが何のためにあるのか?」という根本的な目的は忘れられてしまった。人間に対する神の愛を示すための規定が、いつの間にか人間を縛り付け、差別し、分断する抑圧構造になってしまった。

**タネオくん**…どんなに素晴らしい教えも、「そもそも何のため?」という本質が見失われた時、形骸化してしまうということですね。**マスター**…律法主義者の誤りは、自分の解釈を固定的に絶対化し、神格化したことにある。いわば、自分の解釈や自分の信仰を「偶像化」した、ということだね。

**カラシちゃん**…でも、なんでそんなことをしたくなってしまったんだろう?!

**マスター**…ちょっと回り道になってしまいかもしれないけど、

律法学者たちとフアリサイ派の人々、あなたがた偽善者に災いあれ。あなたがたは、ミント、デイル、クミンの十分の一は献げるが、律法の中で最も重要な公正、慈悲、誠実をないがしろにしている。(マタイの福音書23章23節)

**マスター**…イエスは律法の本質を「公正」「慈悲」「誠実」に見ていたんだ。「公正」はヘブライ語で「ミシュパート」。「詩篇」という聖書箇所を読むと、神は「正しい裁き(ミシュパート)」を行い、それによって「虐げられている人、貧しい人、やもめ、みなしご」を救う、とされている(詩篇68篇、83篇、140篇、146篇など)。

**カラシちゃん**…今でいう「社会正義」とか「人権」に似ているね。

**タネオくん**…壮絶な格差社会だったってことですか?!

**マスター**…そう言っているだろうね。詩篇を見ればわかる通り、神の愛は身分や境道を越えて、弱い立場にあるすべての人を覆い尽くすものだと考えられてきた。

**カラシちゃん**…前話していたレビ記の話にも似ているね。

**マスター**…レビ記は「在留外国人(自分と立場の異なる他者)を自分と同じように大切にせよ」と教えている。イスラエル人もかつては在留外国人という苦しい立場にあり、その辛さが身に染みてわかるはずだからね。だから「自分と同じように」という表現になる。



そのことは考えておく必要があるだろうね。タネオくんはどう思う?

**タネオくん**…うーん、ぼくがクリスチャンになったのは、もともと学校に居場所がなかった、ということがきっかけだったんです。

**マスター**…言える範囲で教えてくれるかな?

**タネオくん**…教会に行くと、みんながぼくを歓迎してくれた。あたたかく迎えてくれた。ここに「愛」がある。受け入れてくれる場所がある、と思ったら、もっとこの教えを知りたくなかったです。

**マスター**…居場所を感じた。愛を感じた。それが信仰のきっかけだったんだね。

**タネオくん**…聖書を知れば知るほど、「何のために生きるのか」という答えがわかった気がしたんです。心がとても安定した。これは「偶像」じゃないと思うんですが……。

**マスター**…「安定」というのは大事なキーワードだね。信仰に安心や安定を求めることは否定されるべきことじゃない。ただ、安定「だけ」を求めると、ちょっと困ったことになるんだ。律法主義の良はそこにある。「哲学」が必要な理由もね。

**タネオくん**…ぶついていることですか?!

～作者よりひとこと～

今回のポイントをまとめます。

- ①「そもそもなんぞっ」という青臭い話をすることは、自分たちが今やっていることの本質的な意味を確かめ直すために必要な作業。
- ②イエスは律法の本質を「公正」「慈悲」「誠実」に見ていた。これは今で言う「社会正義」に近い。一部の特権階級だけでなく、すべての人がよく生きられるようにするのだ。
- ③「そもそも何のため？」が見失われたとき、ルールは形骸化する。
- ④律法主義の本質は宗教的規定に関する己の解釈を絶対化し、他者に押し付けたり、断罪したりすること。

みなさんは「青臭い話」ができる場をもっています



さがおか おおい

1988年京都市生まれ。北海道大学大学院教育学院臨床心理学講座修士課程修了。札幌市内の児童精神科で臨床心理士として勤務。本質学研究会、哲学フロクテイリス学会、宗教倫理学会、キリスト教教育学会等の学術誌に論文掲載。札幌市若者支援施設のstaff（ユースプラス）でワカモノ哲学カフェを主宰するほか、オンラインや地域で子ども・若者と共に哲学対話を行う活動に取り組む。

か？「コロナ以降、そういう時間を持つこと自体が、難しくなってしまったように思います。職場、サークル、趣味の集まり、友達、家族、読書会や勉強会、そして教会。私たちは様々な「コミュニティ」に所属しています。「ミットする深さは、もちろん人それぞれでよいと思います。しかし、その関係があなたにとって大切なつながりなのだとしたら、「そもそも」を語り合うことは、きっと意義深い体験になるはずです。

「うーん、なんだかひっかかるんだよなあ。」「そもそも大切なのはこういうことなんじゃないだろうか。」「あなたはどっと思っっ……ふとした隙間時間に、「青臭い」テーマについてじっくり語り合い、聴き合っつこと。それは、人を縛り付けているルールを自由に解きほぐしていくために必要な作業なのです。」



△CLCアジア会議「ともに強固に」

2024年1月28日から2月2日の6日間に渡って、インドの南東部に位置するタミルナードゥ州チエンナイで開催された、CLCアジア代表者会議（CLC Asian Leaders-Conference）に、CLCからしだね書店の代表として出席しました。

アジア地区の会議は4年に1度開催され、アジア各国の書店の代表者と、世界各地の地区代表が参加します。今回はインド、フィリピン、ミャンマー、タイ、韓国、日本のアジア6か国と、国際CLC、アジア、

# CLCアジア代表者会議 に出席して考えたこと

CLCからしだね書店 坂岡 凱歌

アフリカ、北中米、南米、ヨーロッパの各地域代表24名が集まりました。

会議は、各国・各地域の書店の現状や課題を共有することで互いのニーズや弱点を知ったり、独自の取り組みや挑戦などを紹介し合っつて視野を広げることが主な目的としています。また、昨年11月からしだね書店にも来ていただいた、現アジア代表の Romaldo Macinas さん（フィリピン）の退任に伴っつ新しいアジア代表の選挙も行われ、韓国の Yoo Sohee さんが選出されました。

6日間みっちり組まれたプログラムの濃々に加え、慣れない英語による理解と発信の必要性から、会議のすべてを消化しきれたわけではありませんが、各国の政治的・経済的・文化的状況によって全く異なる書店の動きを知ることができただけでも、非常に有益でした。

以下、各国の書店員との交流を通じて印象に残ったことや考えたことを、いくつかの項目に分けて書いてみたいと思います。その中には未消化の違和感・疑問・アイデアなども含まれますが、そうしたものも、印象が強く残っているうちに、できるだけ生のまま書き残しておきたいと思います。まとまりのないノートのようなものになりますが、そのほうがむしろ読む方に考えるきっかけをもっていただけではないかと思えます。



▲国際CLC代表「CLCのミッション」  
CLCからしだね書店を紹介しています▶



▶参加者会議の代表者

各国がアイデアを出し合ったり、レクチャーが行われたりしました。しかし同時に、すべてのCLCの活動は、CLCがそもそも持っている目的や理念に基づいてなされなければなりません。Chamberlinさんの挙げた例を借りれば、「ひどい本だと知っていながら、売り上げに貢献するという理由でその本を宣伝したり、その本が売れたのを喜んでりする」のは「Holiness」という理念に悖るということですね。

書店で働いていると様々な本と出会います。その中には、個人の考えとは相容れないような内容のものもたくさんあります。しかしわざわざキリスト教書店に来る人にはそれなりのニーズがあるでしょうから、私たちはできるだけそれらに応えられる本を用意しておくべきだと思うので、そうした本が売れるのもまた喜ぶべきことだと考えています。しかしながら、時には明らかに差別的な主張や、一般的な常識とはかけ離れた内容の本が入ってくることもあります。書店の影響力や責任というものを知っていないながら、そうした本を「キリスト教書店」という看板を掲げた店に陳列するのでは、「文書伝道」というCLCの目的に適って

### (1) CLCの理念

会議初日の最初のプログラムにおいて、国際CLC代表のGary Chamberlinさんから、CLC全体の現状と課題の報告がありました。そこではいくつかの国で昨年新店舗がオープンしたことや、国際CLCの世代交代に向けて準備する必要性、インターネットやSNSにおける存在感を高めることの重要性など、現状と課題が共有されました。

その中でも個人的に印象深かったのが、CLCの基本理念(The Four Core Values of CLC)です。そもそもCLCとは、聖書やキリスト教書などを販売・流通させ、それを通して人びとがキリスト教信仰に至り、その中で成長できるようにすることを目的とした国際的な組織です。そしてその働きは、四つの基本理念に基づいてなされます。つまり、① Faith (信仰、神への信頼)、② Sacrifice (自己犠牲、苦しむ他者を助けるために苦勞を惜しまないこと)、③ Fellowship (目的を共にした連帯、交わり)、④ Holiness (価値観に照らした純粹さ、聖々、善)の四つがそれです。

CLCは書店であり、出版社なので、市場経済の中で利益を出して生き残っていかなければなりません。今回の会議でも、そのための戦略やノウハウについて、

るのか。なによりも、そうした差別的で暴力的な本を売っているということ自体が、CLCからしだね書店の理念を裏切っていることになるのではないか。こうしたことを考えると、いかにそうした本に対するニーズがあるとしても、それをからしだね書店で売らなければならないと判断する価値もありません。

このように、「儲けを出したい(出さなければならぬ)」という動機で、「良い本を読んでもらい、人生を少しでも豊かなものにしてほしい」という動機の板挟みになる場合がしばしばあるということ、そしてそのようなときには、自分たちの理念に立ち返る必要があるということ、キリスト教書店は覚えておかなければならないと思います。

特に私たちがからしだね書店は福祉施設の一部でもあるので、金儲けという理念とは別の、福祉の理念や社会的な責任というものをも意識しなければなりません。そしてその理念は、キリスト教書店としてのからしだね書店の理念とどのようにかわっているのかということ、改めて考える必要がありそうだと感じました。言葉を変えると、あえてキリスト教の書店を福祉施設の一部として運営しているからしだね書店のアイデンティティを確認しておかなければならないということ



# インドでみた風景

国際C.L.Cが出版している  
児童向け聖書物語▼



インドっまい  
キリスト教書①▶

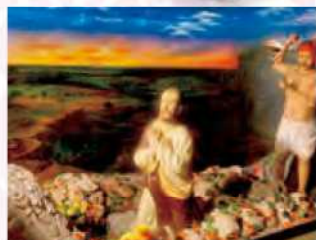
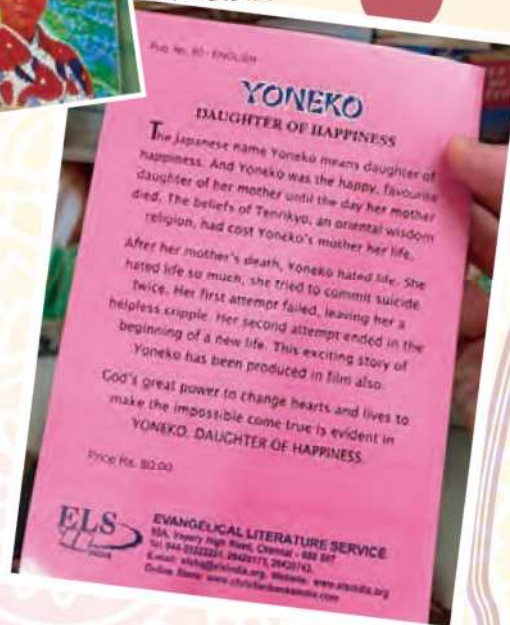
インドっまい  
キリスト教書②▼



バイクに家族全員  
乗車はあたりまえ▼



◀インドの  
キリスト教書店で  
「田原光子さん」を発見  
「田原光子さん」の  
本の裏表紙▼



▲インドで殉教したといわれる  
使徒トマスの人形

簡易キリスト教書店（窓口販売）▶



◀キリスト教書店



## (2) 各国の取り組み

少し抽象的な話になったので、次は日本のキリスト教書店ではあまり見られない海外の書店の活動や事業を紹介したいと思います。

・パナマではショッピングセンターの中に新店舗をオープンしました。日本で言えばイオンモールにキリスト教書店が入っているようなものでしょうか。キリスト教やキリスト教書店の存在感が、日本におけるのはかなり違うということが分かる、興味深い事例だと思います。

・韓国のCLCは物理的な書店での売り上げは微々たるもので、ほとんどは出版事業からの収益となっているとのこと。200タイトルも本を出版しており、「メガチャーター」と呼ばれる巨大な教会が一括で購入するそうです。これはキリスト教徒の人口が多い韓国ならではのありかたでしょう。

・また、ほとんどの国が熱心に取り組んでいることとして、SNSの活用があります。Facebook、Instagram、X、TikTok、WhatsApp など、有名なものはすべてアカウントを作成して、相互にリンクするようにしているそうです。YouTube に動画を投稿している国もありました。アマゾンやアメリカのウォルマートなどのネット通販に関しても、競争相手であると同時に、利用価値のあるプラットフォームと捉えている国が多かったです。総じてデジタル分野へ

の熱心さを感じました。

会議全体を通して、SNSの活用や、電子書籍アプリの企画、出版事業などの話が多く、小売りとしての書店の役割は小さくなっているというのが全体的な印象ですが、同時に、リアルな書店での本を通じた人との出会いが、日々の仕事のやりがいであり喜びであると個人的に話す人が多かったのもまた事実です。



## (3) 一元化することの功罪

今回の会議で主に強調されたのは、SNSなどのデジタル技術の活用法や、効率的な出版事業の進め方など、いかにして多くの顧客とつながり、高い利益を挙げるかということでした。言うまでもなく、商売である以上、量を求めることは重要です。

しかし同時に、書店で直にお客さんの声を聞いている私たちは、そうしたデジタルな技術にアクセスできなかったり、それらを使いこなせないでいる方々のニーズもよく知っています。効率や収益を重視して全てを一元化・合理化することで、ただでさえ小さく見えにくいそれらのニーズが、さらに見過ごされやすくなるのではないかと。合理性や効率を追求するあまり零れ落ちてしまつものはないか。これらをしっかりと見極める必要があると思います。



## (4) キリスト教書店の役割とは？

また、キリスト教書店という場所そのものに喜びを感じてくたさつているお客さんもいます。はっきりとした目的があるわけではないけれども、とにかく書店に行つて本を眺める。良い本を買えなくてもいい。誰と話さなくてもいい。ただその場で過ごす時間そのものが好きだ、と。

キリスト教書店に独自性があるとするならば、そういう時間を提供できるということなのかもしれません。宗教書に囲まれる場であると同時に、商売をする場でもある。経済的な価値観と宗教的な価値観。その二つが同居していて、同時にどちらか一方にも傾かない。効率と生産性を求められる社会に疲れたけれども、教会などの純粋に宗教的な場や、そこでの人との繋がりにも馴染めないというような人が、物言わぬ本に囲まれながら時を過ごし、誰とも話さずに去っていく。そんなことができるのなら、それはキリスト教書店が「半聖半俗」という、中間的な場だからなのではないか。キリスト教書店のような場所が、経済的な合理性のみを追求する場になってしまったら、つまり完全に俗なる場所になってしまったら、どちらの価値観にも染まり切れない人が過ごせる場所が一つなくなってしまうことになるのではないかと。



以上、4つの項目に分けて、今回の会議を通して考えたことや印象に残ったことを書いてみました。各国の書店の働きを知つて改めて思つたのは、技術の進歩とともに、私たちの生活もまた変化せざるを得ないこと。そうした変化に、本と人間の関係や書店のあり方は特に強く影響を受けるということです。しかしその中にもあつても、やはり私たちの行動を導いていくものとして、価値観や理念の力はなくなつていません。いやむしろ人工知能などの技術が進んで、人間にしかできない仕事が多くなればなるほど、根本的な判断の根拠となる人間の価値や理念が厳しく問われることとなります。そしてそうした技術を使って何をするのかを決める人間の思考力・想像力・哲学が、よりいっそう重要になるのではないのでしょうか。

アジア地区代表に就任した  
▼韓国の Sohee さんを祝福



# 古書献本のお願い

たいへん申し訳ございませんが、送料をご負担いただくとありがたいです。(受付できないものもありますので事前にお知らせください。ご事情により当店より回収に行かせていただくこともあります。ご相談ください)

## 【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本(多少、書き込み等があっても、大丈夫です)
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし(料理、健康、経済等)にかかわる本
- 5 小説(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)
- 6 漫画(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)

百科事典・辞書・開封済みの  
CD・DVD・月刊誌・週刊誌等は  
受け付けておりません

## 【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館  
宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX：075-574-0025  
Mail：clc@karashidane.or.jp

## 【本と一緒に以下の内容を記入したメモをお願いします】

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。

## 【献本感謝】

村田充子様 萩野えり様 山田昌昭様 高橋柳子様 兼松哲夫様 宮本博文様(順不同)

2月の古書の収益は58,482円でした。【古本の売上を含むCLCからしだね書店の収益は、書店で働く障がい者の工賃になります】献本くださった方のお名前を書店だよりにご紹介させていただきますと思います。匿名ご希望の方は、お知らせください。ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。

## 編集後記

◆山が木々の芽吹きを感じさせる薄桃色に染まり、1年が始まったと思いきや、もう四分之一が過ぎようとしています。進学・就職を前にしている人、新しいスタートを切る人、今の場所に留まる人、それぞれがそれぞれの思いをもって、この季節を過ごしておられるのだらうなと思います。◆CLCアジア代表者会議での報告を受け、あらためて日本のキリスト教出版業界の状況を考えさせられました。1999年公開の「ノッティングヒルの恋人」(ハリウッド女優と書店主が書店で出会う恋物語)の設定そのものが、成立しない世の中になったとか…? 駅の伝言板なんかもなくなりましたが、「書店」「伝言板」など、もたもたした状況下でこそ起こるハラハラドキドキストーリーも、どんどん消失していくのでしょうか。ちょっと寂しいです。【店長】

京都で長年、障がいを持つ子どもさんなどに「小さな人たちのためにボランティア活動が続けてこられた馬庭京子さんが、2024年3月2日に、86年のご生涯を終えられました。告別式にはとてもたくさんの方が別れを惜しみにこられました。「この子らを世の光に」と言った近江学園設立者・糸賀一雄氏の考えに共鳴し、最後の最後まで「この子らを世の光に」するために尽くした方でした。私たちがコロナ禍で不足する医療現場の使い捨てマスク寄贈を呼びかけたとき、認知症を発症しておられた馬庭さんは家にあった「贈答品のタオル」を一人で一生懸命からしだねまで届けにきてくださいました。「馬庭さんのマスク」を宝物をいただくように受け取った日のことを忘れられません。馬庭さんはお寺の娘さんだったそうですが、その生きざまを前に、「これらのもっとも小さいものうちの一人にしたのは、すなわち私にしたのですね」という聖書の言葉を思いました。無条件に、計算なしに「この子ら」の隣人として生き抜かれたご生涯だったと思います。

編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね  
就労継続支援A・B型事業所からしだねワークス  
からしだね書店&カフェ・トライアングル  
〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館  
書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025  
書店メール [clc@karashidane.or.jp](mailto:clc@karashidane.or.jp)

CLCからしだね書店便りの  
バックナンバーはこちらから

